第 14 回（令和 5 年度第 7 回）タウンミーティングの概要

１　団体名　銀座自治会連合会
　　代表者　会長　出井哲司

２　開催日等
（１）開催日　令和 6 年 2 月 10 日（土）
（２）会　場　銀座自治会館
（３）テーマ　荒川公園周辺の再整備計画について
　　北部地域振興交流拠点整備について

３　意見交換の概要
※ [　　] 内はミーティング終了後、所管課で補足したものです。

市長　始めに市政の概要を報告します。

まずは昨年の 7 月にスマートシティ宣言を行いました。ＩＴを通して皆さんの生活をより豊かにしましょうということです。11 月には、地域経済の活性化にも繋げたいという想いで、クマＰＡＹ（ペイ）という地域電子マネーをスタートしました。地域の皆さんで地域の経済を守る、そういう通貨としてご利用いただきたいと思っています。

次に、利根川新橋です。熊谷市と千代田町を結ぶ橋ができることになり、ドローンを使った測量が始まりました。埼玉県と群馬県とで進めてきましたが、栃木県足利市も乗ってきました。足利・熊谷駅間を 30 分で結び、新幹線が停車する熊谷駅を、東京に出る足利市にとっての玄関口にしたいということです。県を越えての人の交流、物の交流、一番は経済交流の活発化によって、熊谷の元気をもう一度取り戻す。そのための新橋建設がいよいよ動き出しました。

次は道路です。17 号バイパスはいざというときに都内や県南に物資を運ぶ緊急輸送道路という位置づけでしたが、令和 4 年 4 月に重要物流道路に格上げしてもらいました。緊急時だけでなく日常的に使う道路としてスピードアップをしなければいけません。上尾の途中まで来ている首都高速道路はまず圏央道まで、そしてさらに北へという動きになりつつあります。

また、市長になって最初に、コロナ抗原検査キットを全ての小・中学生に配付しました。そしてもう一つ、ＨＰＶワクチン（子宮頸がんワクチン）の予防接種について、男性にも接種費用の助成を始めました。女性だけでなく、男性も守るワクチンです。帯状疱疹ワクチン接種への補助も始まりましたので、ご利用いただけたらありがたいと思います。

市民　荒川公園周辺の再整備計画の概要について伺います。

市長　市民体育館が築後 58 年を経過し老朽化が進み、耐用年数が 60 年ですので、残すところあと 2 年となっています。この状況の中で、体育館も含めて荒川公園地域の一帯を再整備しようというのがこのたびの計画です。

ところが、再整備計画の再検討を求める市民の皆さん方の要望が請願というかたちで提出され、先の 12 月議会で賛成多数で採択されました。再検討することで、再整備計画は数年間遅れることになります。

間もなく耐用年数を迎えることから体育館は耐震工事をしていませんし、冷暖房も整備されていないので地震の際の避難場所として使うことができません。冷暖房を完備して、イベント誘致ばかりでなく避難場所として快適に使っていただけるものに変えたいと考えていました。

また、木を切ることに反対もあるようですが、木が大きくなりすぎると死角ができて、犯罪が起こる可能性が出てくるということや、倒木の恐れもあるという意見もあるのです。街なかの公園ですのでしっかり管理して目も行き届く安心安全な公園にすべきだと思っています。

今県内ではいくつかの自治体が体育館を建設しようとしていますが駅から少し離れています。熊谷の場合は新幹線も停まりますし駅から歩いて 5 分もかかりません。毎回何百万円もかけてシャトルバスを出す必要がありません。

今、バスケットボールやバレーボールなどのプロスポーツチームが本拠地を置くためには収容人数 5,000 人以上が必要になります。こういう体育館を造ってスポーツチームが来てくれれば、集客力の高い体育館になるだろうと思います。コンサートなど文化的なイベントにも利用できます。

これによって、通過するだけでなく熊谷を目的とする人たちに来ていただけるようになります。何よりも造ることが目的ではない。造った後、熊谷がそのことによって元気になる。そういう一つの仕掛けであるということもご理解いただきたいと思います。

市民　反対しているという話は以前聞いたことがありましたが、市民にあまり知らされてないのではないかと思いますがいかがでしょうか。

市長　市からは、市報や市のホームページに掲載してお知らせしています。そして、市全体ではありませんが、交通渋滞や日影等の課題が予想される地域の皆様方のご理解を得るために、説明会を 3 回開催させていただきました。そういうかたちで努力はしてきました。

市民　高齢者もスマートフォンを持っている方は多いのですが、操作できない方もいます。私も市のホームページを見ることはできますが、もっと高齢の方

もいますので、もう少しわかりやすくしていただきたいのですが。

市長　高齢者が使いづらいというのはわかります。市報と、直接関係のある河原町、桜木町、宮前町などには回覧板も含めて報告しています。あとは、私が報告するのが一つ。もう一つは地域の議員さん方と協議をしていただくとありがたいと思います。

ただ、反対の声が大きいのですが、お子さんたちを初め、子育て世代のスポーツをしている方にとっては、やはり新しい体育館、新しい良い環境でスポーツをしたい、こういう方たちも多くいるということを聞いています。両方の話を伺いながら進めているということも、ぜひご理解いただけたらと思います。

市民　荒川公園再整備について三つ伺います。

1点目、文化センターも含まれるのでしょうか。

2 点目、体育館を含めた再整備については、県からの支援はないのですか。スポーツ文化公園内の県の施設と競合が気になります。

3点目、立地が荒川のそばですが、災害のリスクが気になります。

市長　1点目ですが、採択された請願の中に文化センターの敷地も入れて再検討するようにとありました。約12億円かけて耐震工事や内部の改修をしたばかりで耐用年数が 17 年あります。その 12 億円を捨てて造るということは考えられないと思っています。

2点目、県の施設との関係ですが、一定レベルの大会になると空調がない体育館は使われません。空調設備が整った体育館に建て替えることにより、市の体育館と県のドームの板張りの体育館との 2 か所を使って、全日本大会等の名だたる大会を熊谷市単独で誘致することが可能になると考えています。

公園の再整備事業として国交省の補助金を活用することを想定しています。

3点目です。水害については、体育館エリアは、荒川の堤が切れると水深1メートルのエリアですので、最初から 1 メートル以上フロアを高くして避難できる造りにします。地震・水害対策の両方を兼ね備えた体育館を造ることが災害に対しての安心に繋がると思っています。

市民　北部地域振興交流拠点整備の概要説明をお願いします。

市長　コミュニティひろばに、県と市の合同庁舎を造りたいと考えています。目指す市民サービスは、1か所で用が済むことです。

今、熊谷市では開発の手続などは本庁のほか大里、妻沼、江南へ行く必要があります。それをできれば1か所にまとめたい。そこに県の施設、場合によっては法務局などの国の施設が入れば多くの自治体の人たちも、この熊谷を頼るようになります。

今年、県と熊谷市の連絡会議がスタートするのと合わせて、市職員と市民、議員さんにも入ってもらった検討委員会をつくります。大野知事は「北部地域振興交流拠点をモデルルームにして新たな県庁を造る。そのために 7 年後には使用開始したい。」と発言しています。

市民　熊谷市にはドッグランがないので、造っていただけたら嬉しいです。

市長　荒川公園再整備計画と併せて、かわまちづくり計画というものがあり、荒川公園の土手のエリアを整備します。これは国交省が整備をしますので、ドッグランについても要望していこうと思います。河川の中なので、檻を造るのが難しい場合は荒川公園の再整備の中でご要望に応えられるように、一つの案として検討させていただきたいと思います。

（河川課）今年度、かわまちづくり計画では、関係機関や地元へのヒアリングとアンケート調査を実施しました。調査の中に「ドッグランがほしい。」という意見も出ていますが、他にもいろいろな意見が出ており、計画内容については、今後、ワークショップや協議会で決めていく予定です。

市民　先日テレビで国家公務員のマイナンバーカードに関する話題が出ていましたが、熊谷市のマイナンバーカードの取得状況をお聞きしたいと思います。

市長　令和 5 年 6 月時点で、熊谷市のマイナンバーカード保有率は 66. 1%です。保険証として使えるだけでなくコンビニで住民票などが取れますのでご活用ください。

（市民課）令和 6 年 2 月末日時点で、熊谷市のマイナンバーカード保有率は 70.1%です。住民票以外に戸籍や印鑑登録証明等のコンビニ交付、マイナ保険証のほか、直近では e-TAX との連携による確定申告の簡素化、オンライン転出手続も注目を浴びており、利活用の範囲が拡大しています。

市民　中央公園は木が大きくなり、外からは人が中にいるのかどうかもわかりません。もっと木を低くしたり、減らしたり使いやすい公園にしていただきたい。全面芝生にすれば誰でも使えると思います。

また、公園再整備の中で、子育て世代の支援として、屋内遊び場があれば熊谷市の魅力も上がると思いますので検討をお願いします。

市長　公園の木を切ると自然を破壊すると誤解をされる方が多いようです。都市公園として造られた公園ですので、管理が行き届くように一定の整備をしなければならないと思っています。中央公園整備の際には、頂いたご意見を踏まえ、指定管理者と調整し、適正な管理に努めてまいります。

屋内遊び場については、道路部分の工事が始まった道の駅に造ろうと思っています。市民に愛されリピーターとなってもらう施設にするには子どもたちが

天候に係わらず安心して遊べる場所が必要だと考えています。
　また、屋外プールが除却された熊谷さくら運動公園の子供広場を整備し、夏に水遊びができる場所を提供できるよう計画しています。
　こういう計画が進んでいる中で、街なかでも親子が安心して遊べるように、今後、荒川公園再整備計画とあわせて、検討させていただきたいと思います。

市民　給食センターの建て替えについてはどうなっていますか。
市長　給食センターの建て替えについてお話します。
　まず、センター方式に統一した経緯ですが、前市長の頃から協議し、給食室を造る敷地がない学校があること、多額の整備費用がかかることやアセットマネジメントの考え方から、センター方式という方針で決まっています。
　自校方式の設備もかなり老朽化しており、各学校で衛生管理、食物アレルギーに対する対応が難しいこと。特に衛生管理はＨＡＣＣＰ（ハサップ）という衛生基準に合わせることとなるため、1か所で集中的に衛生管理すれば、ばらつきがないということ。それとセンター方式には、高度なシステムを取り込むことができるというメリットがあります。
　給食センターの整備は約83億円かかりますが、自校式では約124億円と約40億円高くなります。また、自校方式で整備していく場合、年間3校としても15年かかってしまい公平性が保てません。それが一番大きな問題です。
　さらに、人件費です。調査の結果、センター方式の場合は配送を含め約100人で済みますが、自校式の場合は調理員だけで300人必要です。
　また、今は毛呂山町からご飯を運んでいますが、センターで炊けるようになることから、より多くの地元の米を使用したり、お米料理のバリエーションも広がりますし、米の備蓄などで地域貢献もできるようになります。施設見学の環境も整え食育の新しいページも開けるものと思っています。
　是非、新たな給食センターにご理解いただきたいと思います。